

四半期報告書

(第88期第3四半期)

自 平成23年10月1日
至 平成23年12月31日

京都市東山区一橋野本町11番地の1

三洋化成工業株式会社

E 0 0 8 8 4

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 5
- (2) 新株予約権等の状況 6
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 6
- (4) ライツプランの内容 6
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 6
- (6) 大株主の状況 6
- (7) 議決権の状況 7

2 役員の状況 8

第4 経理の状況 9

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 10
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 12
 - 四半期連結損益計算書 12
 - 四半期連結包括利益計算書 13
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 14

2 その他 20

第二部 提出会社の保証会社等の情報 21

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年2月10日
【四半期会計期間】	第88期第3四半期（自平成23年10月1日 至平成23年12月31日）
【会社名】	三洋化成工業株式会社
【英訳名】	SANYO CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 安藤 孝夫
【本店の所在の場所】	京都市東山区一橋野本町11番地の1
【電話番号】	075 (541) 4314
【事務連絡者氏名】	総合事務本部副本部長兼経理部長 小寺 昭芳
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル
【電話番号】	03 (5200) 3400
【事務連絡者氏名】	東京支社総務部長 大隅 辰也
【縦覧に供する場所】	三洋化成工業株式会社 東京支社 （東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル） 三洋化成工業株式会社 大阪支社 （大阪市中央区本町一丁目8番12号日本生命堺筋本町ビル10階） 三洋化成工業株式会社 名古屋営業所 （名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号名古屋三井ビル本館16階） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

(注) 上記の東京支社、大阪支社及び名古屋営業所は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第87期 第3四半期連結 累計期間	第88期 第3四半期連結 累計期間	第87期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年12月31日	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高（百万円）	102,158	105,881	136,026
経常利益（百万円）	8,482	6,050	10,527
四半期（当期）純利益（百万円）	4,758	3,523	5,209
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	4,933	2,376	6,757
純資産額（百万円）	86,570	88,531	88,392
総資産額（百万円）	144,286	147,123	140,817
1株当たり四半期（当期） 純利益金額（円）	43.14	31.95	47.22
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	39.93	—	—
自己資本比率（％）	58.0	58.1	60.6
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	7,100	4,750	11,359
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△6,639	△7,970	△9,941
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△2,139	198	△4,607
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	13,613	8,776	12,044

回次	第87期 第3四半期 連結会計期間	第88期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成22年 10月1日 至平成22年 12月31日	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	14.05	9.56

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の「主要な経営指標等の推移」については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含んでおりません。
3. 第87期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（4月～12月）におけるわが国経済は、東日本大震災に伴う経済活動の停滞は持ち直しつつあるものの、長期化する円高、タイ洪水による影響に加え、欧州の財政不安を背景に景気減速感が強まっています。

化学業界におきましては、原燃料価格は依然として前年を上回る水準で推移するとともに、歴史的な円高の継続や世界的な景気減速懸念など、経営環境は予断を許さない状況にあります。

このような環境下における当社の当第3四半期連結累計期間の売上高は、10月以降のタイ洪水の影響や景気減速による落ち込みはあったものの、原燃料価格上昇に対しての製品価格の改定もあり1,058億8千1百万円（前年同期比3.6%増）となりました。

利益面では、原燃料価格が前年同期を上回る水準で推移したことに加え、円高や衣浦工場および鹿島工場での設備投資による償却費の増加もあり、営業利益は48億円（前年同期比38.5%減）、経常利益は60億5千万円（前年同期比28.7%減）、純利益は35億2千3百万円（前年同期比26.0%減）と大幅減益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

<生活・健康産業関連分野>

生活産業関連分野は、洗剤用界面活性剤が液体洗剤の本格的な普及に加え新製品の上市が奏功したことや、ヘアケア製品用界面活性剤の拡販が順調に進んだこと、および一部製品において東日本大震災の影響による応援（受託）生産を行ったことなどから、売り上げを順調に伸ばしました。

健康産業関連分野は、紙おむつ用高吸水性樹脂の世界的な需要拡大を受け、昨年6月中国で増設した年間生産能力7万トンの高吸水性樹脂生産設備を稼働させたことなどによって売上高が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は383億8千7百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益は原燃料価格が高水準であったことに加え、円高の影響もあり22億2千9百万円（前年同期比42.6%減）となりました。

<石油・輸送機産業関連分野>

石油・輸送機産業関連分野は、東日本大震災やタイ洪水による自動車生産台数減少の影響により、自動車内装表皮材用ウレタンビーズや自動車塗料用改質剤の需要が低迷しました。また、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料の売り上げも横ばいに留まりました。一方で、潤滑油添加剤が省燃費対応エンジンオイル用潤滑油の需要拡大やこれに適した新製品の上市で売り上げを大幅に伸ばしたことにより、売上高が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は238億8千5百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は円高や設備投資による償却費の増加もあり3億5千6百万円（前年同期比42.3%減）となりました。

<プラスチック・繊維産業関連分野>

プラスチック産業関連分野は、塗料・コーティング用薬剤の拡販や一部製品において東日本大震災の影響による応援（受託）生産などがありましたが、電子部品搬送トレーなどに使用される永久帯電防止剤の需要が当第3四半期（10月～12月）に入り減少したため、売上高が微増に留まりました。

繊維産業関連分野は、自動車タイヤコード糸などの製造時に用いられる合成繊維用薬剤およびガラス繊維用薬剤が海外を中心に、また炭素繊維用薬剤や合成皮革用ウレタン樹脂も国内外の需要の回復により、売上高が大幅に増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は142億2千万円（前年同期比4.4%増）、営業利益は18億2千8百万円（前年同期比16.6%増）となりました。

<情報・電気電子産業関連分野>

情報産業関連分野は、粉砕トナー用バインダー、重合トナー中間体用ポリエステルビーズとも需要は堅調に推移しましたが、生産拠点の鹿島工場（茨城県神栖市）が東日本大震災により被災したため当第1四半期前半に十分な生産ができなかった影響が残り、低調な売上高となりました。

電気電子関連産業分野は、FPD（フラットパネルディスプレイ）用樹脂の需要が大幅に減少したことに加え、アルミ電解コンデンサ用電解液やシリコンウエハ製造用薬剤の需要が当第3四半期（10月～12月）に入り急激に減少したため、低調な売上高となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は155億1千4百万円（前年同期比6.8%減）、営業利益は4億3千2百万円（前年同期比72.7%減）となりました。

<環境・住設産業関連分野他>

環境関連分野は、カチオン系高分子凝集剤が東日本大震災による鹿島工場の生産設備停止により当第1四半期前半に十分な出荷ができずに販売数量が減少した影響が残り、低調な売上高となりました。

住設関連分野は、家具・断熱材などに用いられるポリウレタンフォーム用原料が国内外で拡販が進んだことに加え、一部東日本大震災の影響による応援（受託）生産もあり、売り上げが大幅に伸びました。また、建築シーラント用原料やセメント用分散剤原料も拡販や震災による補修・改修需要の増加によりそれぞれ大きく売り上げを伸ばしたことによって、売上高は大幅に増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は138億7千3百万円（前年同期比14.0%増）となりましたが、営業損益は原燃料価格が高水準であったことに加え、衣浦工場の償却費の増加などにより4千6百万円の損失（前年同期は1億4千5百万円の営業利益）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は、株価下落による投資有価証券の減少はあったものの、売上債権ならびにたな卸資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べて63億5百万円増加し1,471億2千3百万円となりました。

また、純資産は前連結会計年度末に比べて1億3千8百万円増加し885億3千1百万円となりましたが、自己資本比率は前連結会計年度末から2.5ポイント低下し58.1%となりました。

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較し32億6千7百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末残高は87億7千6百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、47億5千万円（前年同期は71億円の増加）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益60億1千万円、減価償却費68億9千4百万円、仕入債務の増加64億5千2百万円などによる資金の増加が、売上債権の増加67億4千1百万円、たな卸資産の増加31億1千4百万円、法人税等の支払い31億1千8百万円などによる資金の減少を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、79億7千万円（前年同期は66億3千9百万円の減少）となりました。これは、固定資産の取得に77億4千1百万円を支出したことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は、1億9千8百万円（前年同期は21億3千9百万円の減少）となりました。これは長期借入金の返済(純額)12億6千9百万円、配当金の支払い16億4千8百万円などにより資金が減少する一方、短期借入金により36億9千9百万円資金が増加(純額)したことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありませんが、「グローバルに、ユニークな優良企業グループ」を目指す第8次中期経営計画(2011～2014年度)の達成に向け、引き続き企業体質の抜本的な改革と基盤の強化に努めてまいります。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は35億2千万円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

(新設)

当社は平成23年5月16日開催の取締役会において、当社鹿島工場で下記の増設投資を行うことを決定しました。

1. 目的

情報・電気電子産業関連分野において、今後見込まれるトナーバインダーの需要増加へ対応するため能力増強を行うものです。

2. 設備の内容

所在地 : 茨城県神栖市

投資金額 : 約20億円

増設能力 : 9,800トン/年

3. 導入時期

着工予定日 : 平成23年6月

完成予定日 : 平成24年6月

4. 資金調達方法

自己資金

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	257,956,000
計	257,956,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	117,673,760	117,673,760	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	117,673,760	117,673,760	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	—	117,673	—	13,051	—	12,191

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 7,372,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式109,670,000	109,670	同上
単元未満株式	普通株式 631,760	—	—
発行済株式総数	117,673,760	—	—
総株主の議決権	—	109,670	—

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
三洋化成工業(株)	京都市東山区一橋野本町11番地の1	7,372,000	—	7,372,000	6.27
計	—	7,372,000	—	7,372,000	6.27

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、前事業年度の有価証券報告書に記載した事項を除き、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	専務執行役員 営業部門担当兼 購買本部長兼 東京支社長	廣瀬 恒治	平成23年12月31日

(2) 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	常務執行役員 研究部門担当兼 生産技術本部長兼 研究業務本部長	取締役	常務執行役員 研究部門担当兼 生産技術本部担当 兼研究業務本部長	吉野 隆	平成23年8月30日

(注) 1. 執行役員は、取締役兼任を含め平成23年6月17日開催の定時株主総会開催直後の取締役会決議により17名を選任していましたが、平成23年12月31日現在で2名減員となり15名であります。

2. 当四半期累計期間後の役職の異動は以下のとおりであります。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	常務執行役員 営業第二部門担当兼 国際事業推進本部長兼 購買本部長	取締役	常務執行役員 国際事業推進本部長	矢野 達司	平成24年1月1日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,044	8,788
受取手形及び売掛金	36,145	※3 42,730
商品及び製品	7,550	9,655
半製品	3,718	4,449
仕掛品	559	162
原材料及び貯蔵品	3,167	3,721
繰延税金資産	1,386	1,378
その他	788	958
貸倒引当金	△30	△33
流動資産合計	65,329	71,812
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,498	15,676
機械装置及び運搬具（純額）	21,453	24,718
土地	8,524	8,468
建設仮勘定	5,662	2,508
その他（純額）	1,387	1,240
有形固定資産合計	51,525	52,612
無形固定資産		
ソフトウェア	561	654
その他	387	381
無形固定資産合計	948	1,035
投資その他の資産		
投資有価証券	21,629	19,753
長期貸付金	3	3
繰延税金資産	249	778
その他	1,176	1,173
貸倒引当金	△44	△45
投資その他の資産合計	23,014	21,662
固定資産合計	75,488	75,310
資産合計	140,817	147,123

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,289	※3 28,564
短期借入金	3,318	6,822
1年内返済予定の長期借入金	3,164	3,395
未払費用	2,765	3,098
未払法人税等	1,592	539
賞与引当金	1,606	609
役員賞与引当金	88	60
設備関係支払手形	1,473	2,916
その他	3,990	※3 2,825
流動負債合計	40,288	48,831
固定負債		
長期借入金	6,612	5,098
繰延税金負債	332	13
退職給付引当金	3,540	3,085
役員退職慰労引当金	745	610
その他	905	952
固定負債合計	12,136	9,760
負債合計	52,425	58,591
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,051	13,051
資本剰余金	12,194	12,194
利益剰余金	62,571	64,441
自己株式	△5,694	△5,697
株主資本合計	82,122	83,988
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,136	3,839
為替換算調整勘定	△1,986	△2,366
その他の包括利益累計額合計	3,149	1,472
少数株主持分	3,119	3,069
純資産合計	88,392	88,531
負債純資産合計	140,817	147,123

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	102,158	105,881
売上原価	80,649	87,250
売上総利益	21,508	18,631
販売費及び一般管理費	※ 13,704	※ 13,831
営業利益	7,804	4,800
営業外収益		
受取利息	36	45
受取配当金	296	376
持分法による投資利益	457	951
不動産賃貸料	266	254
その他	194	144
営業外収益合計	1,251	1,772
営業外費用		
支払利息	128	198
不動産賃貸原価	68	64
たな卸資産廃棄損	54	59
為替差損	281	166
その他	40	33
営業外費用合計	572	522
経常利益	8,482	6,050
特別利益		
投資有価証券売却益	1	0
固定資産売却益	178	1
貸倒引当金戻入額	18	—
受取保険金	—	58
補助金収入	—	155
特別利益合計	197	215
特別損失		
固定資産除却損	206	250
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	10	—
投資有価証券評価損	2	2
貸倒引当金繰入額	0	1
その他	0	1
特別損失合計	221	255
税金等調整前四半期純利益	8,459	6,010
法人税等	2,873	1,893
少数株主損益調整前四半期純利益	5,585	4,116
少数株主利益	826	592
四半期純利益	4,758	3,523

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,585	4,116
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△38	△1,297
為替換算調整勘定	△614	△442
その他の包括利益合計	△652	△1,739
四半期包括利益	4,933	2,376
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,238	1,846
少数株主に係る四半期包括利益	694	530

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,459	6,010
減価償却費	5,831	6,894
固定資産除却損	206	250
のれん償却額	128	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	10	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△13	4
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△830	△996
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△613	△455
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△206	△134
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△9	△27
受取利息及び受取配当金	△332	△422
支払利息	128	198
持分法による投資損益 (△は益)	△457	△951
固定資産売却損益 (△は益)	△178	△1
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1	△0
投資有価証券評価損益 (△は益)	2	2
その他の営業外損益 (△は益)	△69	△345
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,980	△6,741
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,131	△3,114
その他の資産の増減額 (△は増加)	△354	△106
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,107	6,452
未払消費税等の増減額 (△は減少)	111	△127
その他の負債の増減額 (△は減少)	553	427
小計	9,359	6,817
利息及び配当金の受取額	598	907
利息の支払額	△129	△201
その他	218	346
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,947	△3,118
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,100	4,750

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△200	△12
定期預金の払戻による収入	15	—
固定資産の取得による支出	△6,318	△7,741
固定資産の売却による収入	160	35
投資有価証券の取得による支出	△8	△26
投資有価証券の売却による収入	3	0
貸付けによる支出	△2	△1
貸付金の回収による収入	1	1
その他	△292	△224
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,639	△7,970
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	849	3,699
長期借入れによる収入	—	601
長期借入金の返済による支出	△891	△1,871
自己株式の売却による収入	0	—
自己株式の取得による支出	△10	△3
配当金の支払額	△1,646	△1,648
少数株主への配当金の支払額	△441	△580
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,139	198
現金及び現金同等物に係る換算差額	△273	△246
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,951	△3,267
現金及び現金同等物の期首残高	15,565	12,044
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 13,613	* 8,776

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用)	第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<p>1 偶発債務</p> <p>燃料ガス売買代金の支払に係る債務保証</p> <p>サンライズ・ケミカルLLC 12百万円 (155千円ドル)</p> <p>金融機関借入に伴う債務保証</p> <p>サンライズ・ケミカルLLC 277百万円 (3,333千円ドル)</p>	<p>1 偶発債務</p> <p>燃料ガス売買代金の支払に係る債務保証</p> <p>サンライズ・ケミカルLLC 10百万円 (133千円ドル)</p> <p>金融機関借入に伴う債務保証</p> <p>サンライズ・ケミカルLLC 194百万円 (2,500千円ドル)</p>
<p>2 当社においては、資金調達をより確実なものとするため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <p>貸出コミットメントの総額 7,000百万円</p> <p>借入実行残高 - 〃</p> <hr/> <p>差引額 7,000百万円</p>	<p>2 当社においては、資金調達をより確実なものとするため取引銀行5行と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当第3四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <p>貸出コミットメントの総額 8,000百万円</p> <p>借入実行残高 2,000 〃</p> <hr/> <p>差引額 6,000百万円</p>
	<p>※3 第3四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理</p> <p>第3四半期連結会計期間末日満期手形及び確定日現 金決済（手形と同条件で手形期日に現金決済する方法）の 会計処理は、手形交換日をもって決済処理しております。</p> <p>なお、当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休 日であったため、次の第3四半期連結会計期間末日満期分 が第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。</p> <p>受取手形 3,229百万円 支払手形 4,676百万円 及び売掛金 及び買掛金 その他 17百万円</p>

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
<p>※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <p>運送費・保管料 3,762 百万円</p> <p>給与・報酬 2,078 〃</p> <p>役員賞与繰入額 55 〃</p> <p>従業員賞与 713 〃</p> <p>退職給付費用 221 〃</p> <p>福利厚生費 597 〃</p> <p>減価償却費 197 〃</p> <p>研究開発費 3,682 〃</p>	<p>※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <p>運送費・保管料 3,956 百万円</p> <p>給与・報酬 2,144 〃</p> <p>役員賞与繰入額 60 〃</p> <p>従業員賞与 643 〃</p> <p>退職給付費用 254 〃</p> <p>福利厚生費 640 〃</p> <p>減価償却費 226 〃</p> <p>研究開発費 3,520 〃</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年12月31日現在)
現金及び預金勘定 13,813 百万円	現金及び預金勘定 8,788 百万円
預入期間が3か月を超える定期預金 $\Delta 200$ "	預入期間が3か月を超える定期預金 $\Delta 12$ "
現金及び現金同等物 13,613 百万円	現金及び現金同等物 8,776 百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年5月17日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成22年3月31日	平成22年6月1日	利益剰余金
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成22年9月30日	平成22年12月1日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月16日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成23年3月31日	平成23年5月31日	利益剰余金
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	827	7.5	平成23年9月30日	平成23年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額	合計
	生活・健康産業関連分野	石油・輸送機産業関連分野	プラスチック・繊維産業関連分野	情報・電気電子産業関連分野	環境・住設産業関連分野他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	36,676	23,048	13,622	16,644	12,166	102,158	—	102,158
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	21	—	121	142	△142	—
計	36,676	23,048	13,644	16,644	12,287	102,300	△142	102,158
セグメント利益	3,883	618	1,568	1,588	145	7,804	—	7,804

(注) セグメント利益の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額	合計
	生活・健康産業関連分野	石油・輸送機産業関連分野	プラスチック・繊維産業関連分野	情報・電気電子産業関連分野	環境・住設産業関連分野他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	38,387	23,885	14,220	15,514	13,873	105,881	—	105,881
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	24	—	136	160	△160	—
計	38,387	23,885	14,244	15,514	14,009	106,042	△160	105,881
セグメント利益又は損失(△)	2,229	356	1,828	432	△46	4,800	—	4,800

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	43円14銭	31円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	4,758	3,523
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	4,758	3,523
普通株式の期中平均株式数 (千株)	110,319	110,302
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	39円93銭	—
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加数 (千株)	8,873	—
(うち転換社債型新株予約権付社債)	(8,873)	(—)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成23年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額……………827百万円
- (ロ) 1 株当たりの金額…………… 7 円50銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成23年12月 1 日

(注) 平成23年 9 月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月10日

三洋化成工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 市田 龍 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柳 年 哉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三洋化成工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三洋化成工業株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年2月10日
【会社名】	三洋化成工業株式会社
【英訳名】	SANYO CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 安藤 孝夫
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	京都市東山区一橋野本町11番地の1
【縦覧に供する場所】	三洋化成工業株式会社 東京支社 (東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号第10中央ビル) 三洋化成工業株式会社 大阪支社 (大阪府中央区本町一丁目8番12号日本生命堺筋本町ビル10階) 三洋化成工業株式会社 名古屋営業所 (名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号名古屋三井ビル本館16階) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

(注)上記の東京支社、大阪支社及び名古屋営業所は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役 安藤 孝夫は、当社の第88期第3四半期（自平成23年10月1日 至平成23年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。